

令和元年度 第4回

希望郷いわてモニターアンケート

# 文化芸術に関する意識調査

令和元年9月

岩手県文化スポーツ部文化振興課



# I アンケート調査の概要

## 1 調査課題名

文化芸術に関する意識調査

## 2 調査の目的

調査結果を、岩手県文化芸術振興指針の改訂及び本県の文化芸術振興施策の推進の参考としようとするもの。

### 【用語について】

この調査で「文化芸術」とは、芸術・芸能、伝統文化、生活文化、景観をいい、例示すると概ね以下のとおり。

分野	内容(例)
芸術・芸能	文学、音楽、美術、工芸、デザイン、写真、演劇、舞踊、メディア芸術(映画、漫画、アニメーション及びコンピュータ等を利用した芸術をいう。)その他の芸術及び歌唱その他の芸能(伝統芸能を除く。)
伝統文化	文化財、伝統芸能、地域固有の年中行事その他の伝統的な文化芸術
生活文化	茶道、華道、書道、方言、衣食住等に係る生活様式その他の生活に係る文化
景観	地域の歴史的な又は文化的な景観(の保全・活用)

## 3 調査内容

- (1) 文化芸術に対する親近度
- (2) 文化芸術鑑賞・活動の状況
- (3) 文化芸術鑑賞・活動における課題・支障
- (4) 今後行いたい文化芸術鑑賞・活動
- (5) 文化芸術鑑賞に関する情報の入手方法
- (6) 文化芸術活動への参加に関する情報の入手方法
- (7) 震災後の文化芸術復興支援策
- (8) 世界遺産登録に向けた取組
- (9) 若者の文化芸術への参加
- (10) アール・ブリュットの認知状況
- (11) アール・ブリュットの推進方法
- (12) 文化芸術への行政支援に関するニーズ
- (13) 本県の文化芸術にかかる将来像・理想像
- (14) 本県の文化芸術振興に必要なこと(自由意見)

## 4 調査期間

令和元年7月10日(水)～7月24日(水)

## 5 調査方法

調査紙郵送及びインターネット

## 6 調査対象

令和元年度希望郷いわてモニター 258名

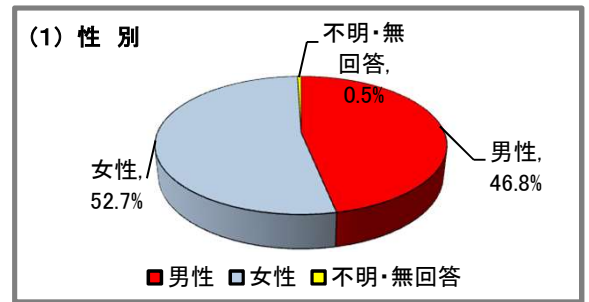
## 7 回答者数

201名(77.9%)

## 8 回答者内訳

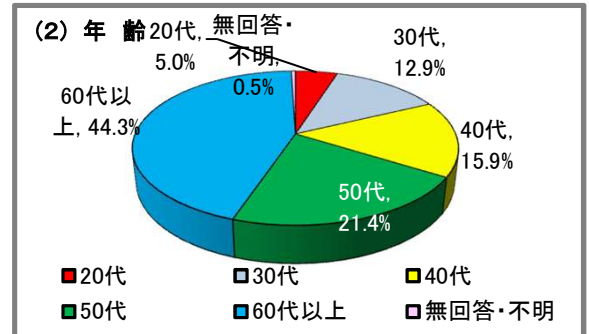
### (1) 性別

男性	94
女性	106
不明・無回答	1
<b>計</b>	<b>201</b>



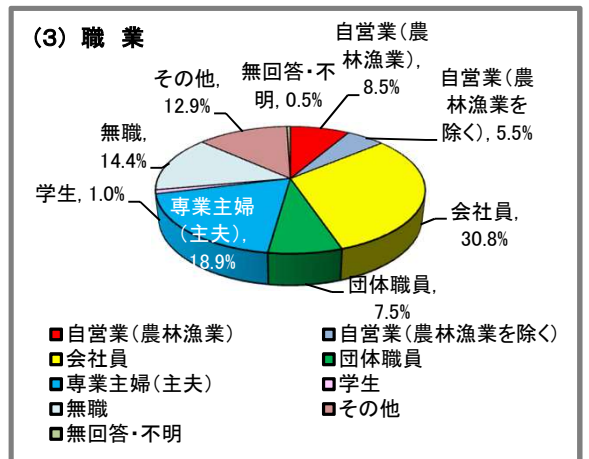
### (2) 年齢

	男性	女性	不明	合計
20代	4	6		10
30代	10	16		26
40代	16	16		32
50代	17	26		43
60代以上	47	42		89
無回答・不明			1	1
<b>計</b>	<b>94</b>	<b>106</b>	<b>1</b>	<b>201</b>



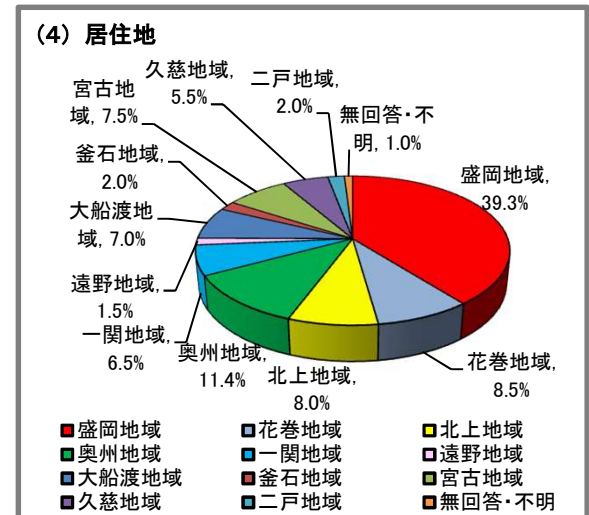
### (3) 職業

	男性	女性	不明	合計
自営業(農林漁業)	13	4		17
自営業(農林漁業を除く)	6	5		11
会社員	33	29		62
団体職員	10	5		15
専業主婦(主夫)	1	37		38
学生	2	0		2
無職	21	8		29
その他	8	18		26
無回答・不明	0	0	1	1
<b>計</b>	<b>94</b>	<b>106</b>	<b>1</b>	<b>201</b>



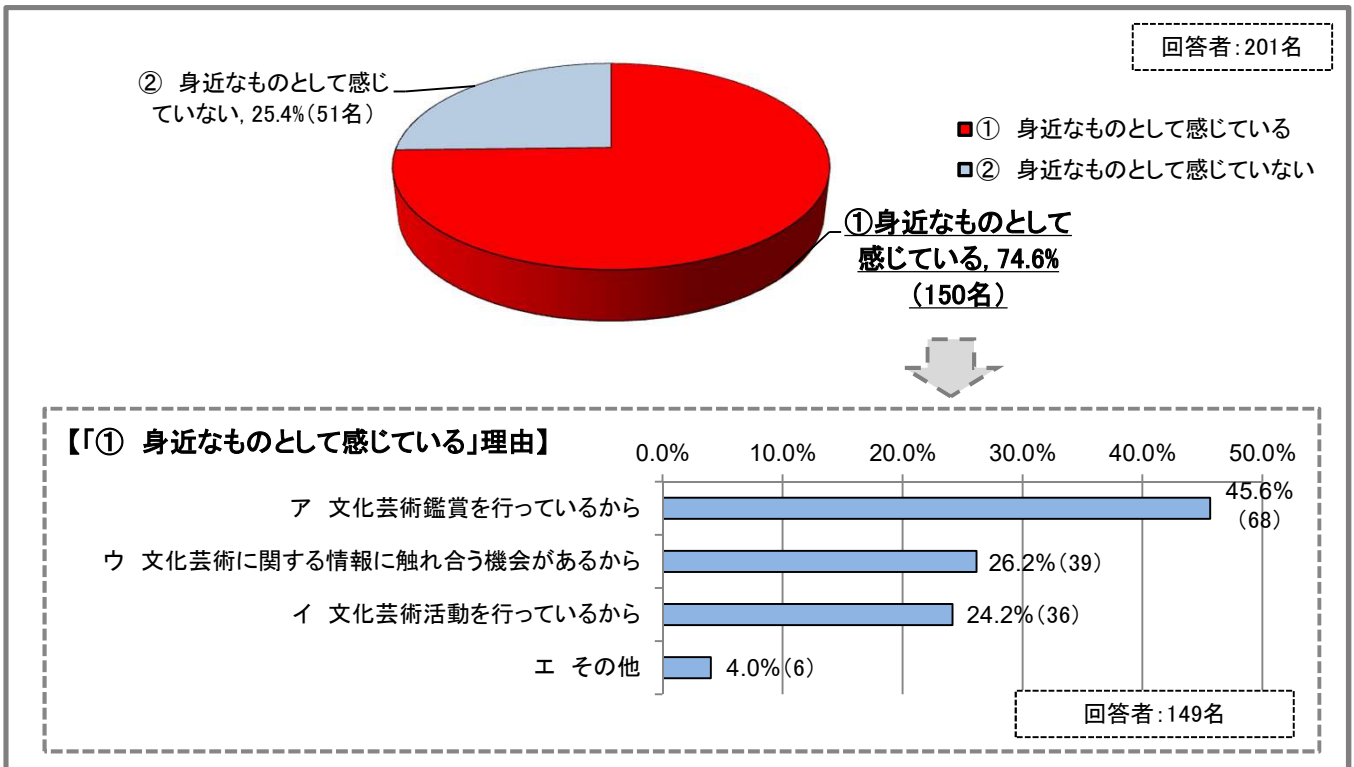
### (4) 居住地

	男性	女性	不明	合計
盛岡地域	36	43		79
花巻地域	8	9		17
北上地域	7	9		16
奥州地域	9	14		23
一関地域	8	5		13
遠野地域	1	2		3
大船渡地域	8	6		14
釜石地域	3	1		4
宮古地域	8	7		15
久慈地域	3	8		11
二戸地域	3	1		4
無回答・不明	0	1	1	2
<b>計</b>	<b>94</b>	<b>106</b>	<b>1</b>	<b>201</b>



## Ⅱ アンケート集計結果

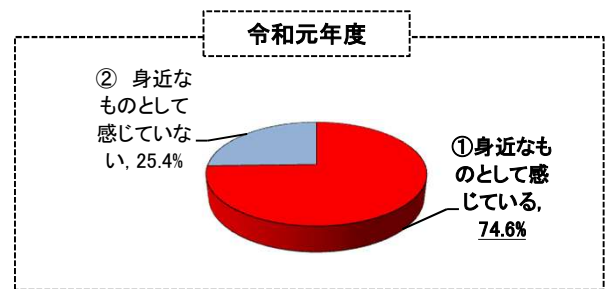
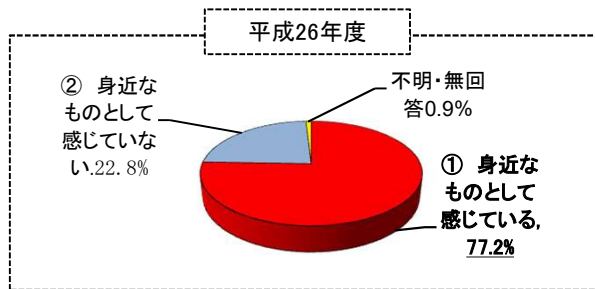
### 問1 文化や芸術を身近なものとして感じていますか。



74.6%の回答者が「文化芸術を身近なもの」と感じており、その理由としては「(文化芸術の)鑑賞を行っているから」が最も多い。

#### <参考: 過去の調査結果との比較>

#### Q 文化や芸術を身近なものとして感じているか。



平成26年度と比較し、「身近なものと感じている」と回答した割合が、77.2% (H26) → 74.6% (R1) と2.6%減少している。

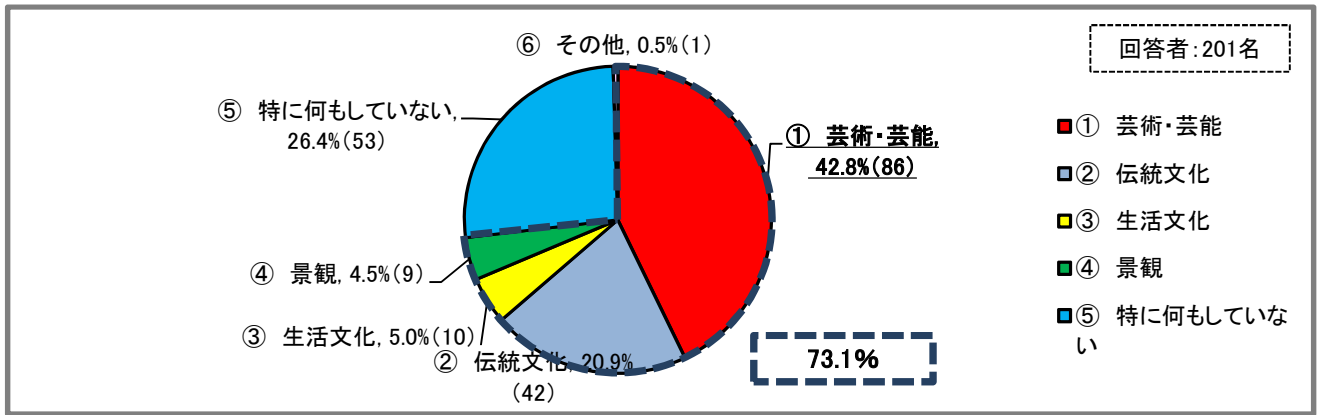
#### 【「① 身近なものとして感じている」理由】

選択肢	回答割合		増減
	平成26年度 (順位)	令和元年度 (順位)	
ア 文化芸術鑑賞を行っているから	45.8% (1)	45.6% (1)	-0.2% +0
イ 文化芸術活動を行っているから	26.1% (2)	26.2% (2)	0.1% +0
ウ 文化芸術に関する情報に触れ合う機会があるから	26.1% (2)	24.2% (3)	-1.9% Δ1
エ その他	2.0% (4)	4.0% (4)	2.0% +0
不明・無回答	0.0% (5)	0.0% (5)	0.0% +0

「ア 文化芸術鑑賞を行っているから」の回答割合は、両年度において最も高い。

問2 ここ1年間で主に行った文化芸術鑑賞や文化芸術活動について（「(1) 分野」を選択肢から1つ選択し、「(2) 内容」について各自記入）

### (1) 分野



73.1%の回答者が、ここ1年間に何らかの文化芸術鑑賞・活動を行っている。

### (2) 内容

音楽鑑賞(すべてのジャンル、コンサート鑑賞等を含む)[18]  
美術・絵画鑑賞(美術館見学なども含む)[18]  
映画鑑賞[17]  
民俗芸能への参加[14]  
民俗芸能鑑賞[7]  
様々な芸術芸能鑑賞[6]  
その他の芸術活動[5]  
演劇・芝居鑑賞[4]、史跡・名勝・遺跡等の見学[4]  
音楽活動(演奏、作成等)[3]、書道(活動)[3]  
写真撮影・活動[2]、美術・絵画(作成・描く等の活動)[2]、落語鑑賞[2]  
華道(活動)[1]、工芸制作[1]、茶道(活動)[1]、伝統芸能鑑賞[1]、俳句創作[1]、漫画鑑賞[1]、メディア芸術鑑賞[1]、文学執筆[1]、民謡、三曲の鑑賞[1]

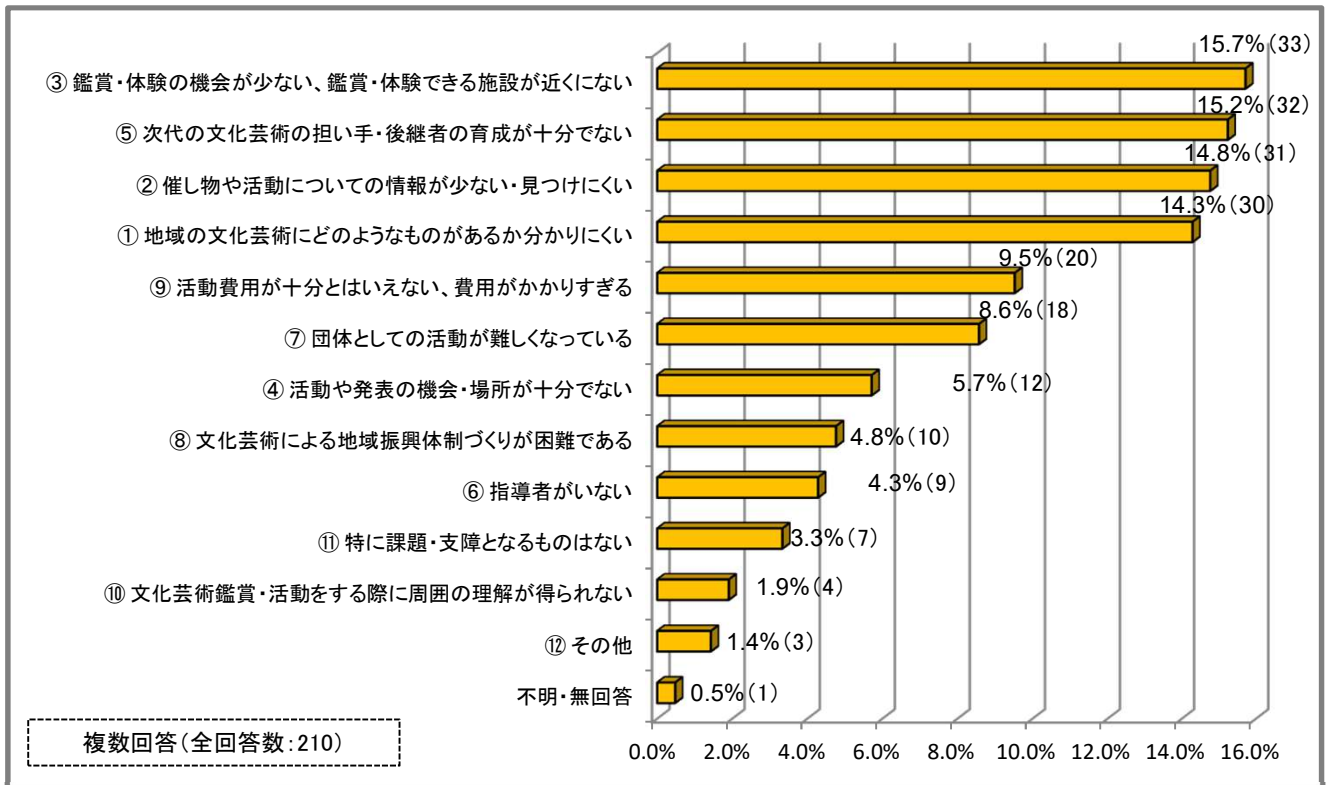
※ 鑑賞・活動の区分が不明であるもの  
民俗芸能[3]、メディア芸術[2]、演劇[1]、書道[1]

文化芸術鑑賞については、音楽、美術・絵画、映画の鑑賞を行っている回答数が多く、次いで、民俗芸能、様々な芸術芸能、演劇・芝居、史跡・名勝・遺跡等の見学などとなっている。

文化芸術活動については、民俗芸能への参加を行っている回答数が最も多く、次いで、その他の芸術活動、音楽、書道などとなっている。

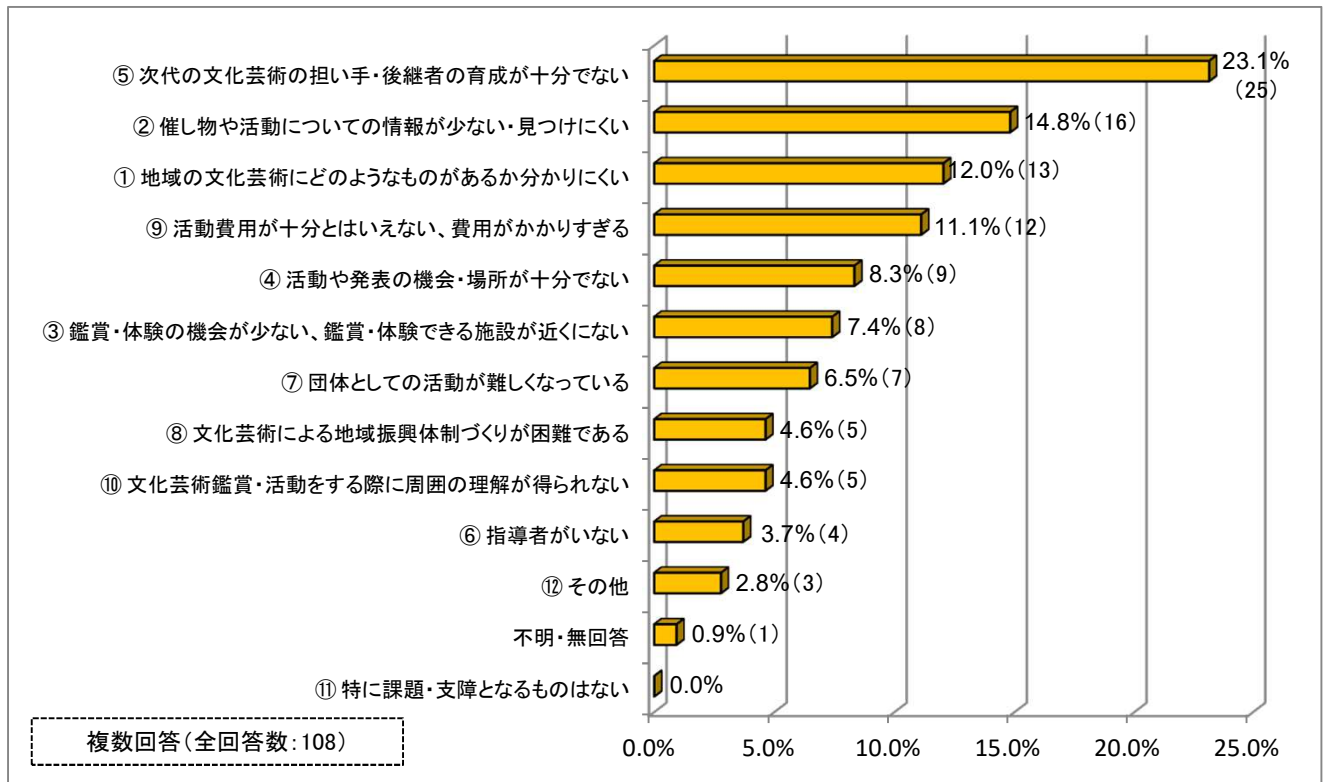
問3 問2で回答した文化芸術鑑賞や文化芸術活動において、現状どのような課題や支障があると感じていますか。(選択肢から3つまで選択)

(1) 芸術・芸能



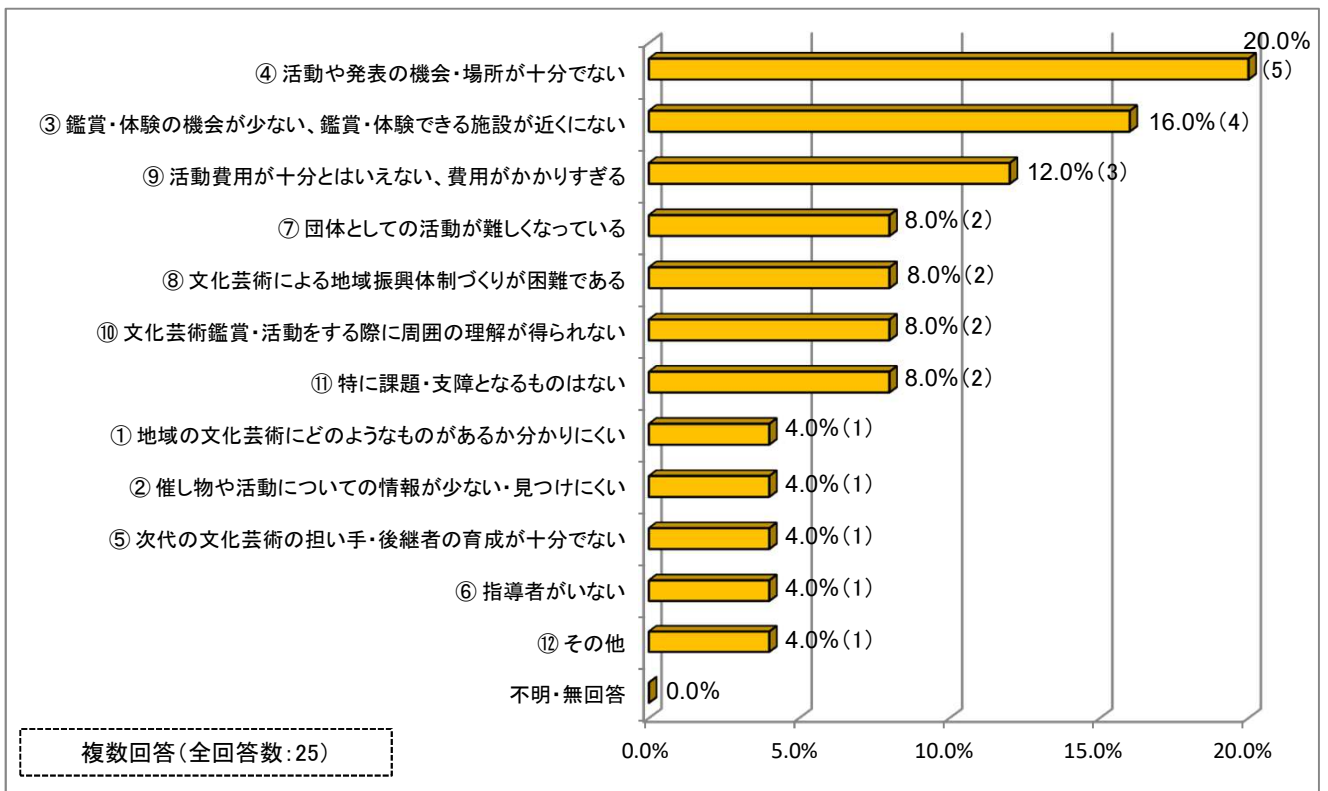
「(1) 芸術・芸能」においては、「③ 鑑賞・体験の機会が少ない、鑑賞・体験できる施設が近くにない」、「⑤ 次代の文化芸術の担い手・後継者の育成が十分でない」、「② 催し物や活動についての情報が少ない・見つけにくい」、「① 地域の文化芸術にどのようなものがあるか分かりにくい」など、文化芸術の情報を得る機会・文化芸術に触れる機会の少なさや担い手不足について回答した割合が多くなっている。

(2) 伝統文化



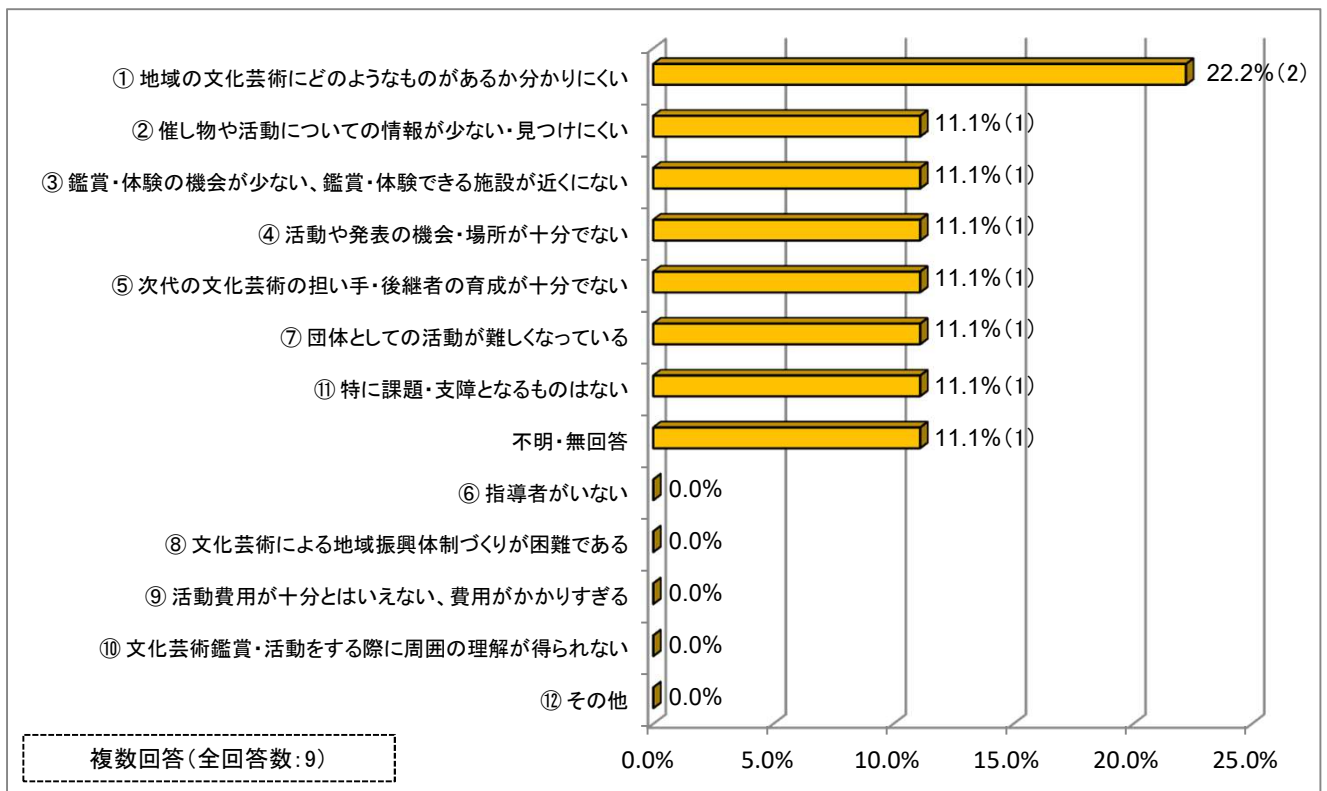
「(2) 伝統文化」においては、「⑤ 次代の文化芸術の担い手・後継者の育成が十分でない」ことが最も大きな支障となっている。(回答割合が2番目に高い「催し物や活動についての情報が少ない・見つけにくい」を大きく引き離している。)

### (3) 生活文化



「(3) 生活文化」においては、「④ 活動や発表の機会・場所が十分でない」を挙げる回答数が最も多くなっており、次いで、「③ 鑑賞・体験の機会が少ない、鑑賞・体験できる施設が近くにない」、「⑨ 活動費用が十分とはいえない、費用がかかりすぎる」となっている。

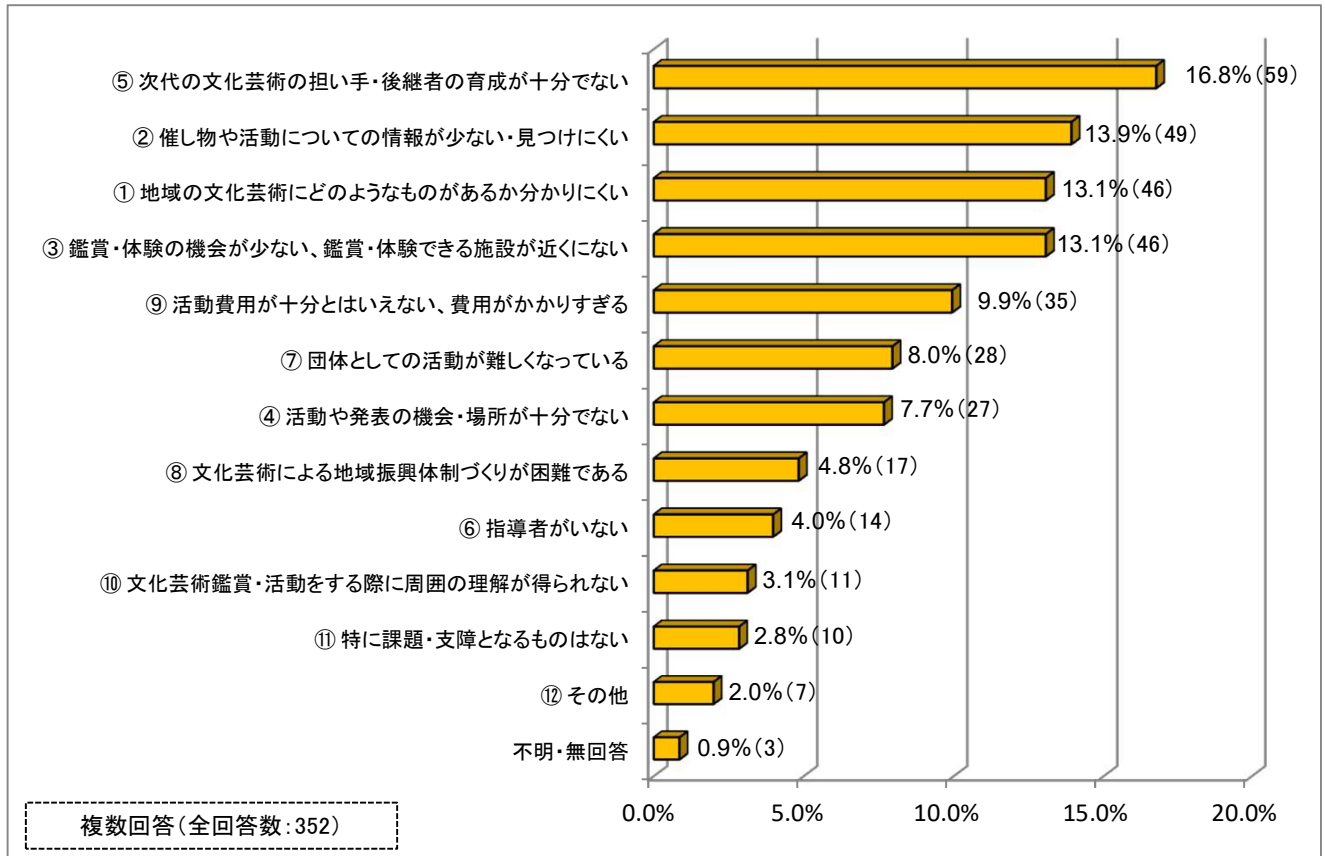
### (4) 景観



「(4) 景観」においては、「① 地域の文化芸術にどのようなものがあるか分かりにくい」の回答数が最も多くなっているが、他の選択肢との差はほとんどない状況である。



【全分野(文化芸術全般) ※上記「(1) 芸術・芸能」～「(4) 景観」の合計】



文化芸術の「全分野」で見ると、「⑤ 次代の文化芸術の担い手・後継者の育成が十分でない」、「② 催し物や活動についての情報が少ない・見つけにくい」、「① 地域の文化芸術にどのようなものがあるか分かりにくい」、「③ 鑑賞・体験の機会が少ない、鑑賞・体験できる施設が近くにない」といった回答が多くなっている。

<参考: 過去の調査結果との比較>

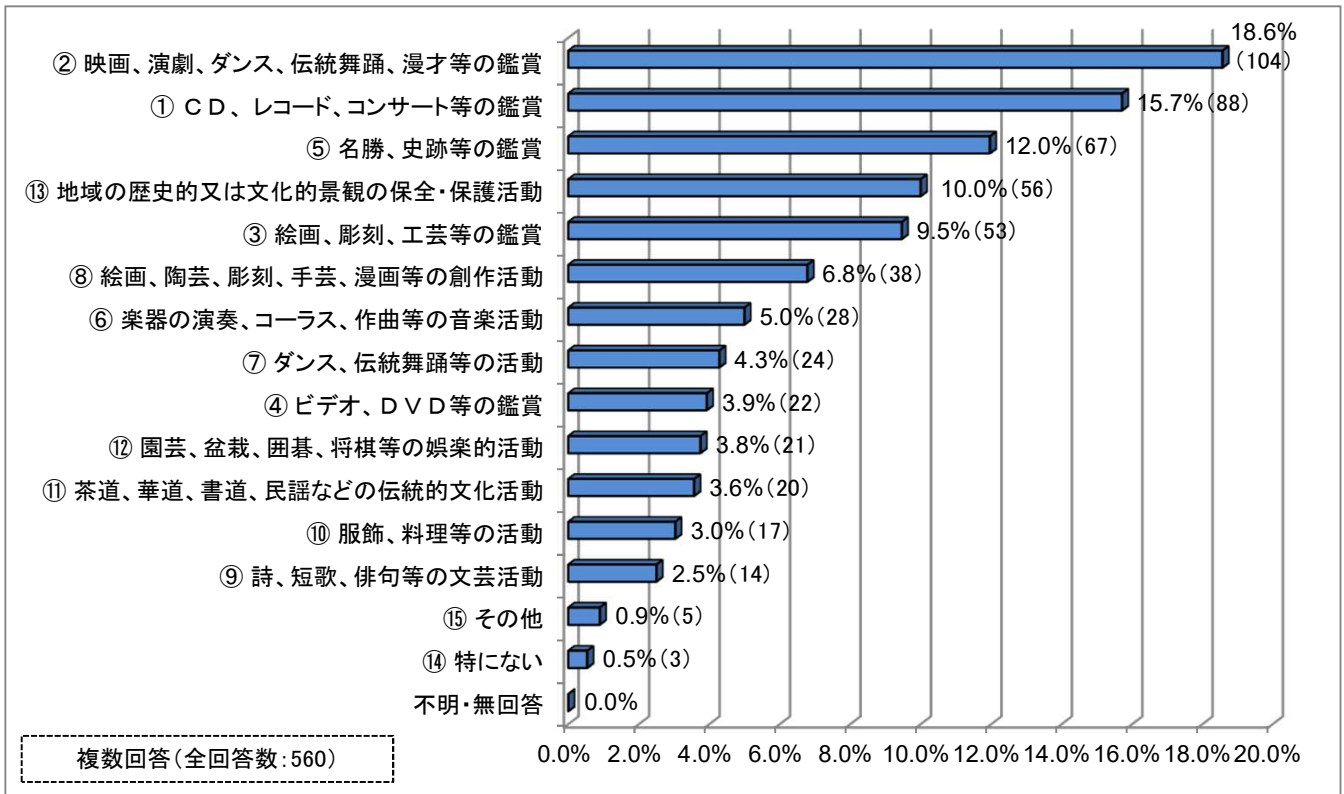
Q 【文化芸術全般】鑑賞や活動において、現状どのような課題や支障があると感じていますか。

選択肢	回答割合		増減	
	平成26年度 (順位)	令和元年度 (順位)	増減 (順位)	
① 地域の文化芸術にどのようなものがあるか分かりにくい	10.0% (4)	13.1% (3)	3.1%	+1
② 催し物や活動についての情報が少ない・見つけにくい	15.0% (2)	13.9% (2)	-1.1%	+0
③ 鑑賞・体験の機会が少ない、鑑賞・体験できる施設が近くにない	12.5% (3)	13.1% (3)	0.6%	+0
④ 活動や発表の機会・場所以が十分でない	6.1% (9)	7.7% (7)	1.6%	+2
⑤ 次代の文化芸術の担い手・後継者の育成が十分でない	15.4% (1)	16.8% (1)	1.4%	+0
⑥ 指導者がいない	7.4% (7)	4.0% (9)	-3.4%	△2
⑦ 団体としての活動が難しくなっている	8.2% (5)	8.0% (6)	-0.2%	△1
⑧ 文化芸術による地域振興体制づくりが困難である	6.8% (8)	4.8% (8)	-2.0%	+0
⑨ 活動費用が十分とはいえない、費用がかかりすぎる	7.6% (6)	9.9% (5)	2.3%	+1
⑩ 文化芸術鑑賞・活動をする際に周囲の理解が得られない	4.5% (11)	3.1% (10)	-1.4%	+1
⑪ 特に課題・支障となるものはない	4.7% (10)	2.8% (11)	-1.9%	△1
⑫ その他	1.2% (12)	2.0% (12)	0.8%	+0
不明・無回答	0.6% (13)	0.9% (13)	0.3%	+0

注 網掛けの数値は、平成26年度・令和元年度それぞれの年度における回答割合が、上位1位から3位までの選択肢であること。

- 「次代の担い手・後継者の育成が十分でない」ことが大きな支障となっている。
- 次いで、「情報の少なさ・見つけにくさ」や「鑑賞・活動の機会の少なさ」が回答割合が高く、平成26年度から上位の順位に変動はない。

問4 今後行ってみたい文化芸術鑑賞や文化芸術活動について（選択肢から3つまで選択）



問2の「ここ1年間で主に行った文化芸術鑑賞や文化芸術活動について」の回答と同様、音楽・映画・演劇などの鑑賞に関する回答割合が特に高くなっている。

<参考：過去の調査結果との比較>

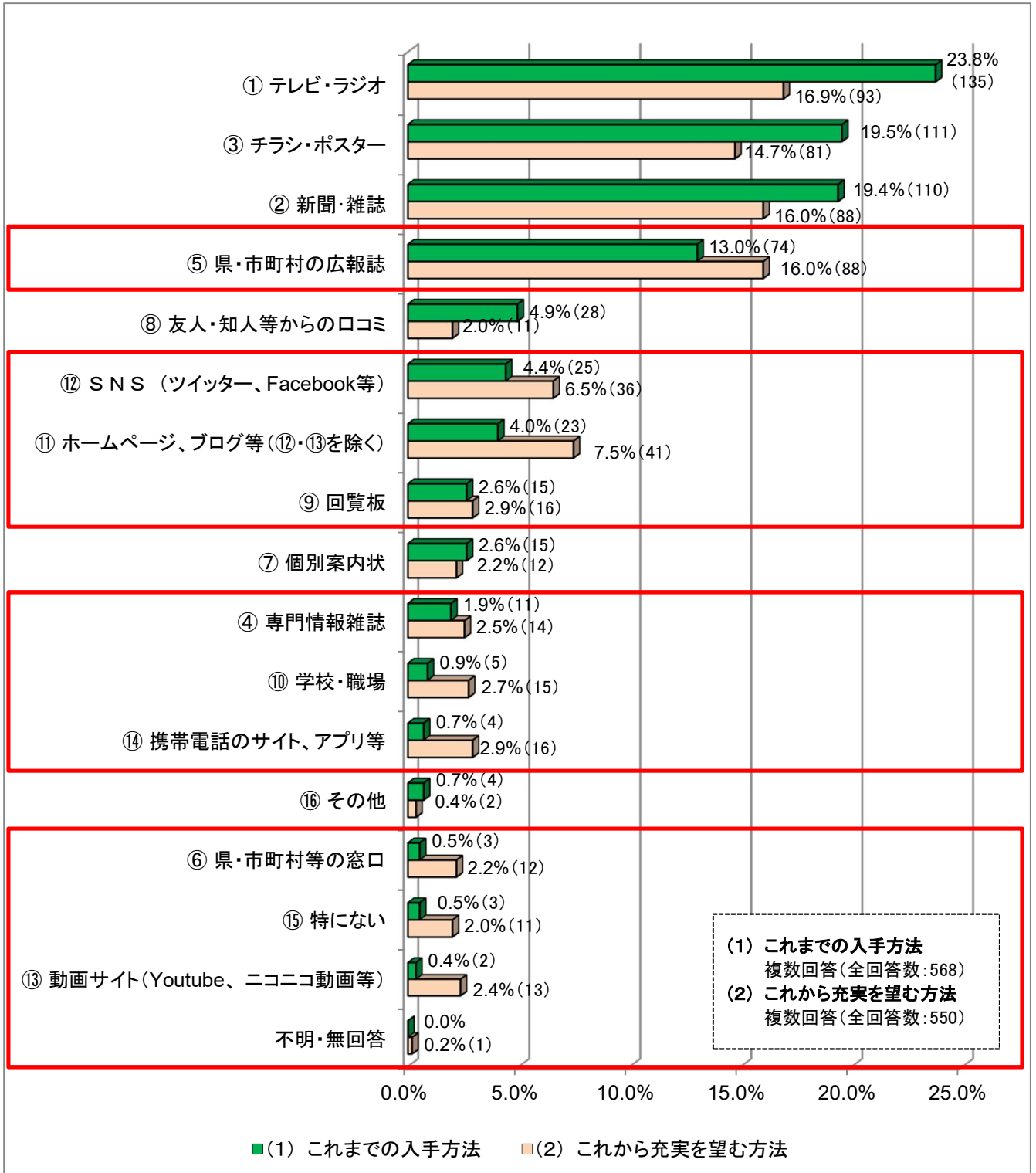
Q 今後行ってみたい文化芸術鑑賞や文化芸術活動について

選択肢	回答割合		増減	
	平成26年度 (順位)	令和元年度 (順位)	増減 (順位)	増減 (順位)
① CD、レコード、コンサート等の鑑賞	14.7% (2)	15.7% (2)	1.0%	+0
② 映画、演劇、ダンス、伝統舞踊、漫才等の鑑賞	19.3% (1)	18.6% (1)	-0.7%	+0
③ 絵画、彫刻、工芸等の鑑賞	7.4% (6)	9.5% (5)	2.1%	+1
④ ビデオ、DVD等の鑑賞	5.0% (9)	3.9% (9)	-1.1%	+0
⑤ 名勝、史跡等の鑑賞	10.8% (3)	12.0% (3)	1.2%	+0
⑥ 楽器の演奏、コーラス、作曲等の音楽活動	6.3% (7)	5.0% (7)	-1.3%	+0
⑦ ダンス、伝統舞踊等の活動	2.9% (13)	4.3% (8)	1.4%	+5
⑧ 絵画、陶芸、彫刻、手芸、漫画等の創作活動	7.5% (5)	6.8% (6)	-0.7%	△1
⑨ 詩、短歌、俳句等の文芸活動	3.1% (12)	2.5% (13)	-0.6%	△1
⑩ 服飾、料理等の活動	4.6% (10)	3.0% (12)	-1.6%	△2
⑪ 茶道、華道、書道、民謡などの伝統的文化活動	5.3% (8)	3.6% (11)	-1.7%	△3
⑫ 園芸、盆栽、囲碁、将棋等の娯楽的活動	3.8% (11)	3.8% (10)	0.1%	+1
⑬ 地域の歴史的又は文化的景観の保全・保護活動	8.1% (4)	10.0% (4)	1.9%	+0
⑭ 特にない	0.7% (14)	0.5% (15)	-0.2%	△1
⑮ その他	0.6% (15)	0.9% (14)	0.3%	+1
不明・無回答	0.1% (16)	0.0% (16)	-0.1%	+0

注 網掛けの数値は、平成26年度・令和元年度それぞれの年度における回答割合が、上位1位から3位までの選択肢であること。

○ 「⑦ ダンス、伝統舞踊等の活動」以外、順位の増減にあまり変化がない。  
 ○ 平成26年度・令和元年度においても、「② 映画、演劇、ダンス、伝統舞踊、漫才等の鑑賞」、「① CD、レコード、コンサート等の鑑賞」及び「⑤ 名勝、史跡等の鑑賞」が上位3項目となっている。

問5 文化芸術鑑賞(例:コンサートホール・劇場・映画館・美術館・博物館等での公演や展示、各種芸術祭の公演などの鑑賞に関するもの)に関する情報をどのようなものから入手していますか。(1)これまでの入手方法と(2)これから充実を望む方法について、選択肢から3つまで選択

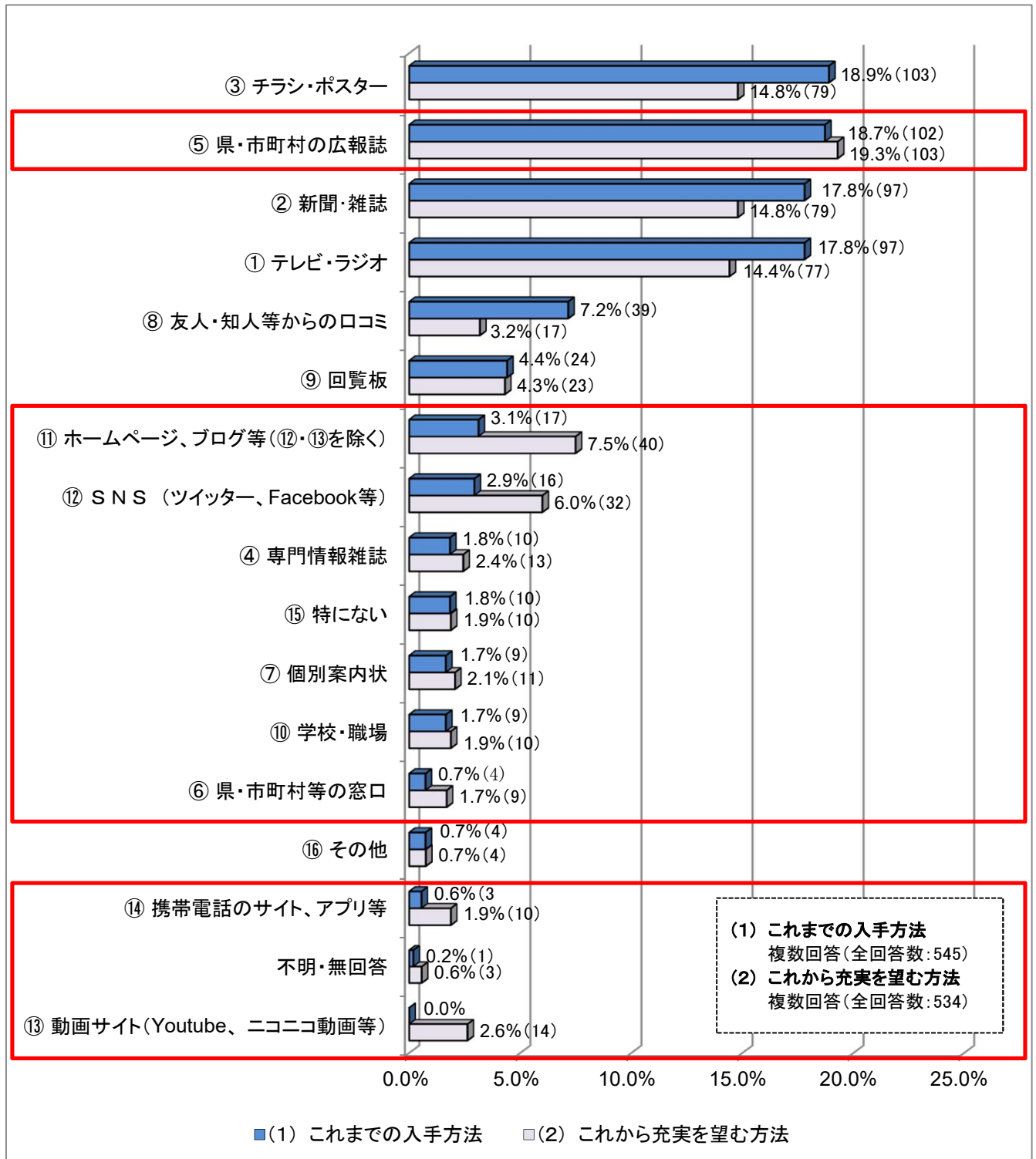


注 四角囲みの部分は、「(1)これまでの入手方法」よりも「(2)これから充実を望む方法」の回答割合が高い項目であること。

○ 「(1)これまでの入手方法」及び「(2)これから充実を望む方法」の両方において、「① テレビ・ラジオ」が最も回答割合が高い項目となっており、若干の順位の違いはあるが「③ チラシ・ポスター」、「② 新聞・雑誌」、「⑤ 県・市町村の広報誌」の3項目も同様に回答割合が高くなっている。

○ 「⑤ 県・市町村の広報誌」や、「⑪ ホームページ、ブログ等」、「⑫ SNS」等のインターネット関連項目は、「(1)これまでの入手方法」よりも「(2)これから充実を望む方法」の回答割合が高くなっており、今後の充実を望む期待値が高いことが分かる。

問6 文化芸術活動への参加(例:文化芸術に係る習い事・創作活動・サークル等への参加、地域の芸能や祭りへの参加、文化財・景観等の保護活動への参加など)に関する情報をどのようなものから入手していますか。(1)これまでの入手方法と(2)これから充実を望む方法について、選択肢から3つまで選択

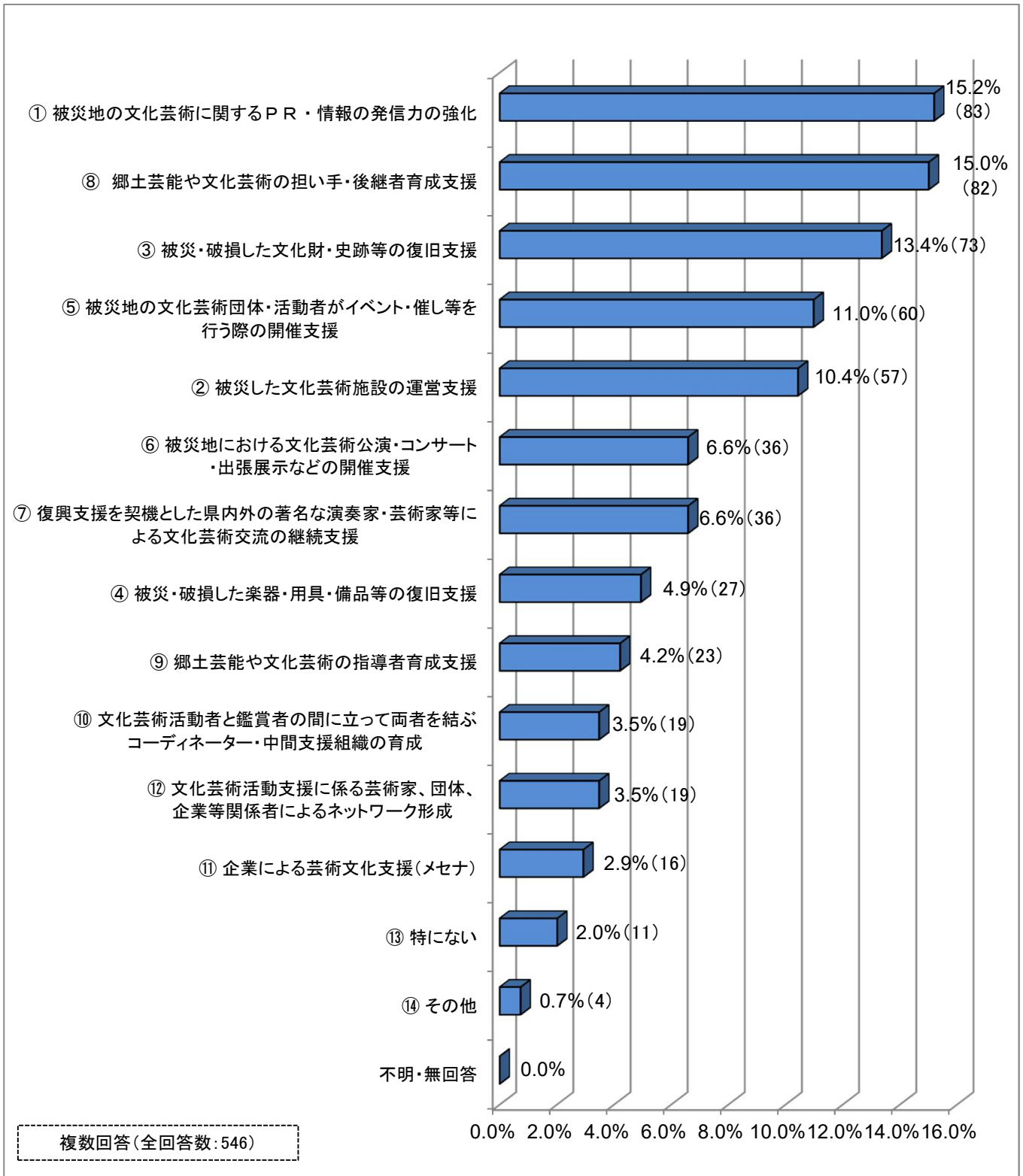


注 四角囲みの部分は、「(1)これまでの入手方法」よりも「(2)これから充実を望む方法」の回答割合が高い項目であること。

○ 「(1)これまでの入手方法」及び「(2)これから充実を望む方法」の両方において、「③ チラシ・ポスター」、「⑤ 県・市町村の広報誌」、「② 新聞・雑誌」、「① テレビ・ラジオ」が回答割合が高くなっている。

○ 「⑪ ホームページ、ブログ等」や「⑫ SNS」等のインターネット関連項目は、「(1)これまでの入手方法」よりも「(2)これから充実を望む方法」の回答割合が特に高くなっており、今後の充実を望む期待値が高いことが分かる。

問7 平成23年3月の東日本大震災津波からの復興の先を見据えた被災地の文化芸術復興支援施策について、どのような取組が必要であると思いますか。（選択肢から3つまで選択）



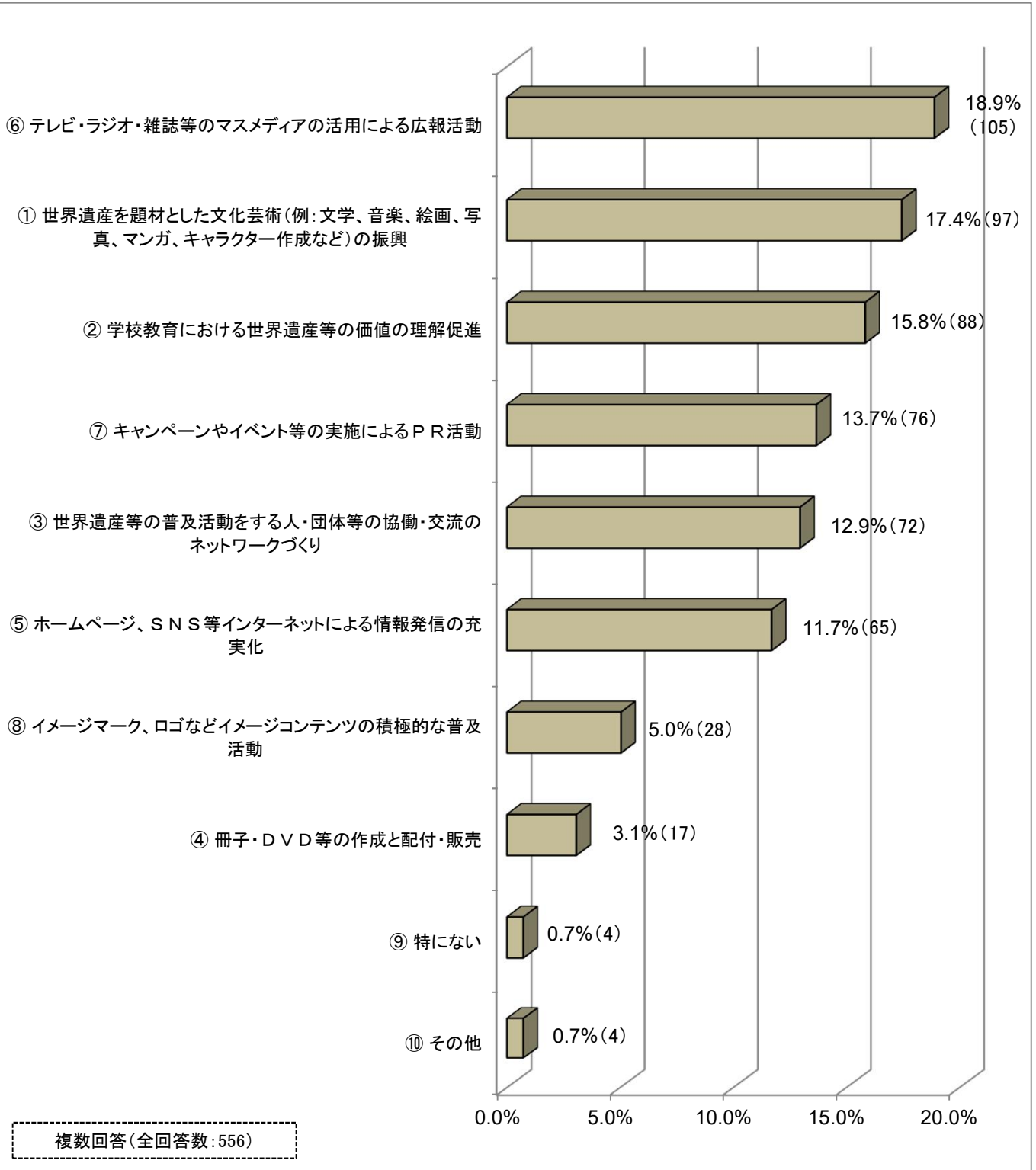
「① 被災地の文化芸術に関するPR・情報の発信力の強化」が最も高い回答割合となっているものの、

- ・ 2位: 「⑧ 郷土芸能や文化芸術の担い手・後継者育成支援」
- ・ 3位: 「③ 被災・破損した文化財・史跡等の復旧支援」
- ・ 4位: 「⑤ 被災地の文化芸術団体・活動者がイベント・催し等を行う際の開催支援」
- ・ 5位: 「② 被災した文化芸術施設の運営支援」

と1位から5位までの項目との回答割合の差はあまり大きくないことから、施設・文化財等の復旧、情報発信への支援、後継者育成などの施策を総合的に行うことが望まれていることが分かる。

問8 平成23年に「平泉の文化遺産」、平成27年に「明治日本の産業革命遺産(橋野鉄鉱山)」がユネスコの世界遺産に登録され、現在、「北海道・北東北の縄文遺跡群(御所野遺跡)」の世界遺産登録を目指した取組が進められています。

今後さらに岩手県の世界遺産等の魅力や情報を発信・普及していくためにはどのような取組が必要であると思いますか。(選択肢から3つまで選択)

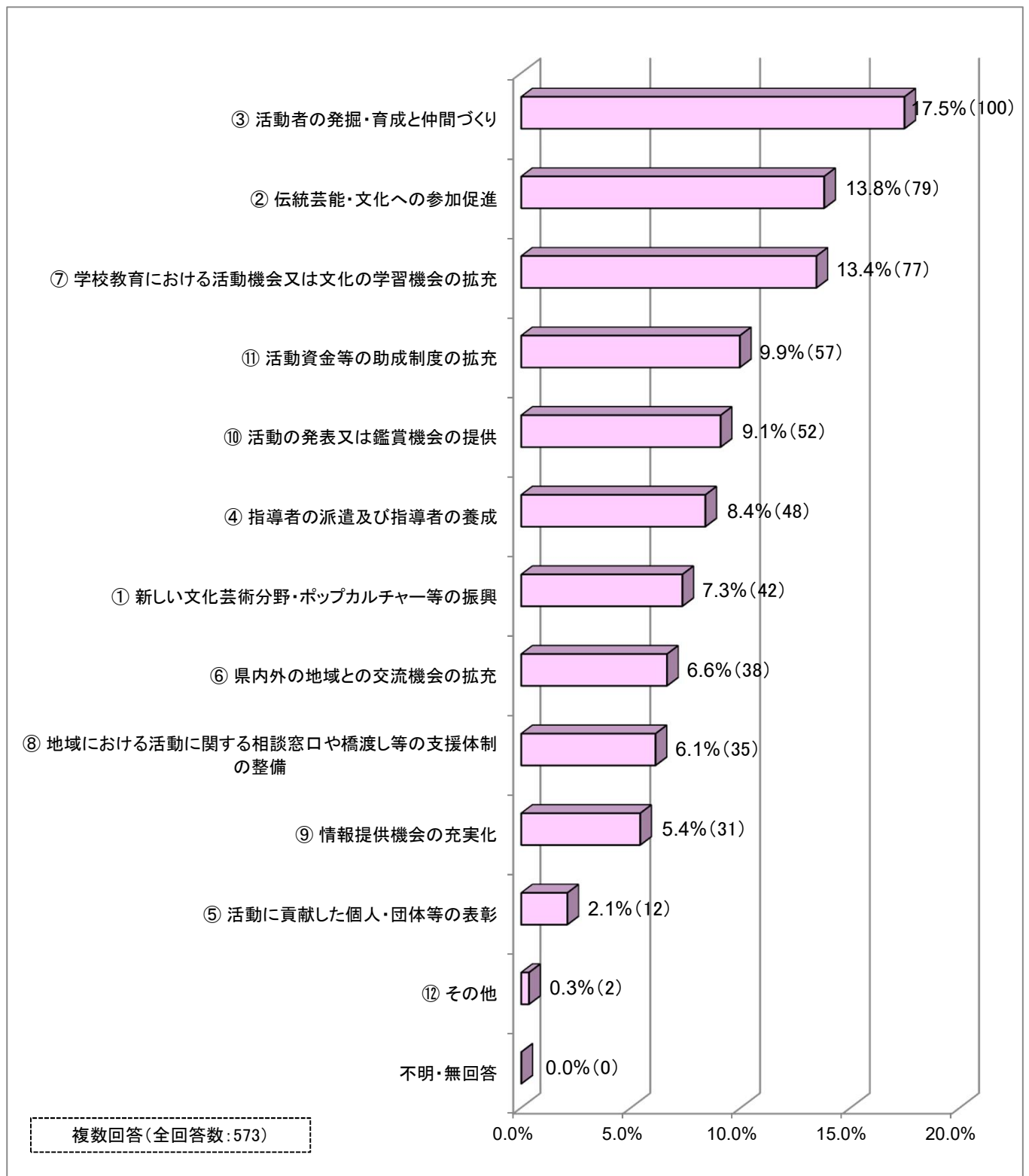


「⑥ テレビ・ラジオ・雑誌等のマスメディアの活用による広報活動」が最も高い回答割合となっているものの、

- ・ 2位: 「① 世界遺産を題材とした文化芸術(例:文学、音楽、絵画、写真、マンガ、キャラクター作成など)の振興」
- ・ 3位: 「② 学校教育における世界遺産等の価値の理解促進」
- ・ 4位: 「⑦ キャンペーンやイベント等の実施によるPR活動」
- ・ 5位: 「③ 世界遺産等の普及活動をする人・団体等の協働・交流のネットワークづくり」
- ・ 6位: 「⑤ ホームページ、SNS等インターネットによる情報発信の充実化」

と1位から7位までの項目との回答割合の差はあまり大きくないことから、情報発信・PR活動への支援、世界遺産等の価値の理解促進、普及活動者のネットワークづくりなどの施策を総合的に行うことが望まれていることが分かる。

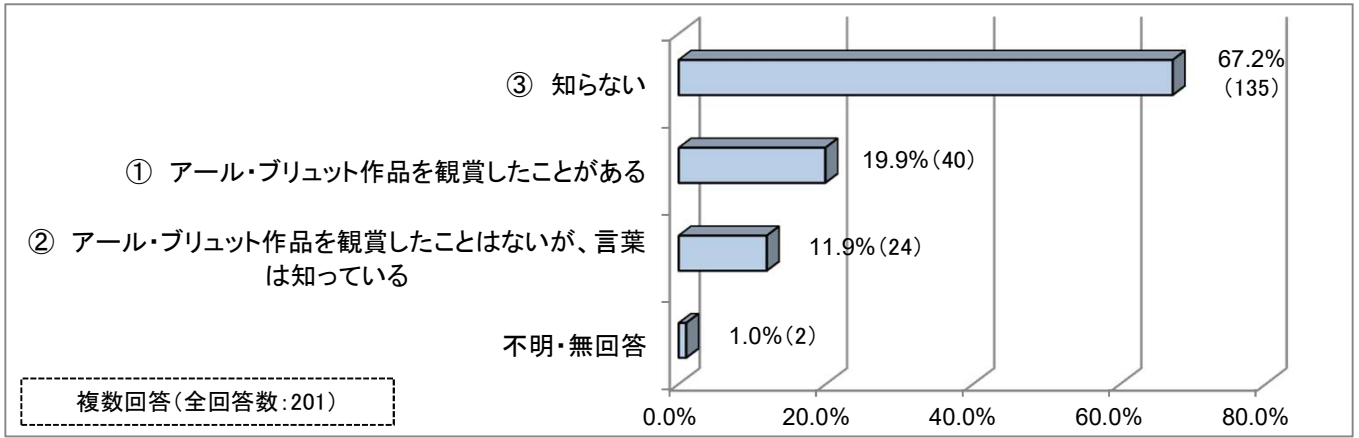
問9 今後、若者がより積極的に文化芸術活動に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。  
(選択肢から3つまで選択)



○ 回答割合の多かった上位3つの項目は、「③ 活動者の発掘・育成と仲間づくり」、「② 伝統芸能・文化への参加促進」、「⑦ 学校教育における活動機会又は文化の学習機会の拡充」となっており、このことから、学校教育において活動・学習の機会を増やしつつ、地域の若者を郷土芸能・文化へ取り込んでいくための取組が多く望まれていることが分かる。

○ 一方、回答割合4位の「⑪ 活動資金等の助成制度の拡充」から9位の「⑨ 情報提供機会の充実化」までも回答割合の差はあまり大きくないことから、総合的な文化芸術への若者参加の取組が必要であることが分かる。

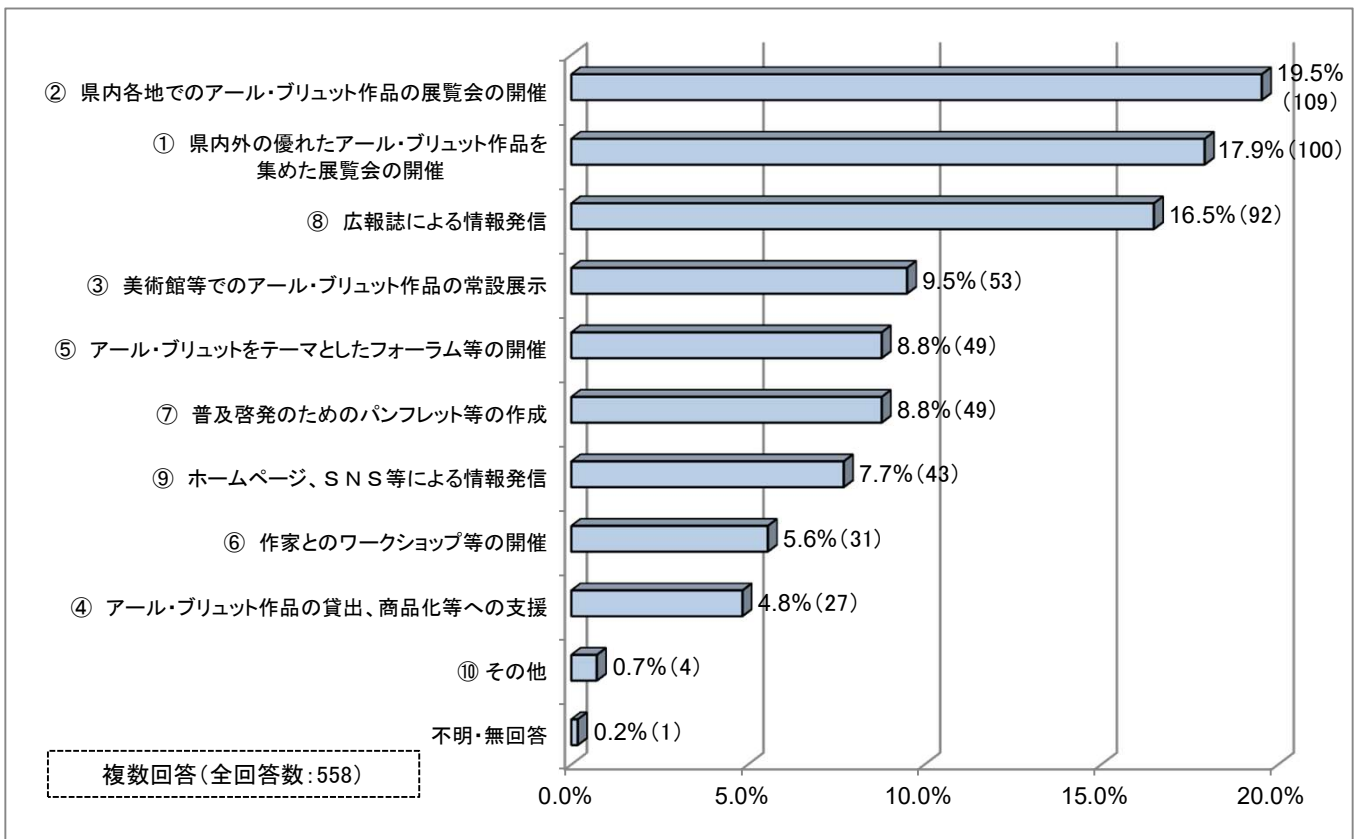
問10 伝統や流行・教育などに左右されず、自身の内側からわきあがる衝動のままに表現した芸術で、障がいのある人・子ども・素人芸術家らの作品を「オール・ブリュット」と言いますが、このオール・ブリュットのことを知っていますか。



○ 「**③ 知らない**」の回答割合が多くなっており、現状では、**オール・ブリュットの認知度は高いとはいえない**ことが分かる。

○ 「**② アール・ブリュット作品を観賞したことはないが、言葉は知っている**」よりも「**① アール・ブリュット作品を観賞したことがある**」と回答割合が高くなっており、**鑑賞機会があることがオール・ブリュット作品の理解の促進となっている**ことが推察できる。

問11 岩手県では、オール・ブリュットを始めとした障がい者の文化芸術活動の推進に取り組んでいます。県民のオール・ブリュットへの関心を高めるためにはどのような方法が有効だと考えますか。(選択肢から3つまで選択)

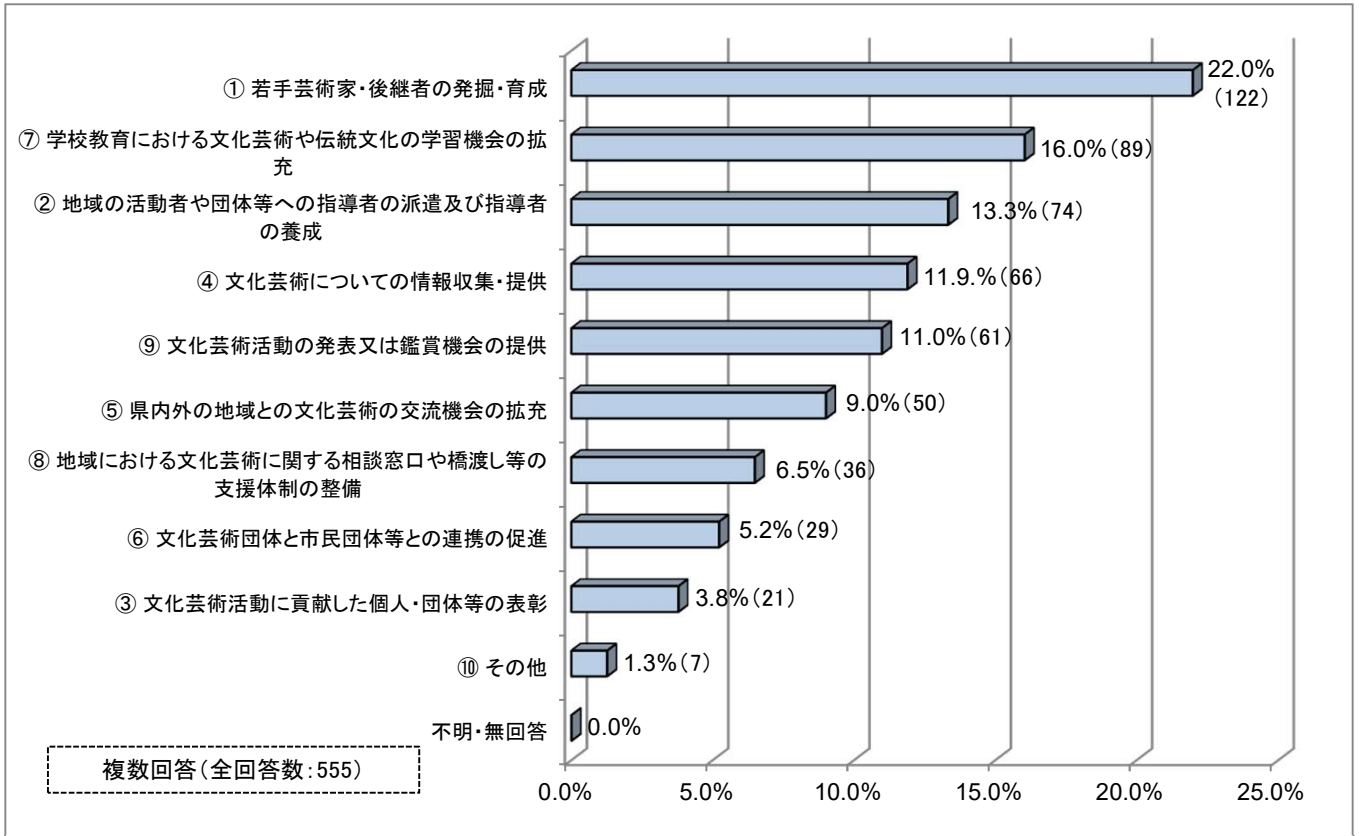


○ 「**② 県内各地でのオール・ブリュット作品の展覧会の開催**」、「**① 県内外の優れたオール・ブリュット作品を集めた展覧会の開催**」、「**⑧ 広報誌による情報発信**」の回答割合が多くなっており、**鑑賞機会の充実と情報発信が望まれている**ことが分かる。

○ また、回答割合4位の「**③ 美術館等でのオール・ブリュット作品の常設展示**」から9位の「**④ アール・ブリュット作品の貸出、商**



問12 文化芸術の担い手である県民に対する行政のサポートとして、どのようなものが大切だと考えますか。(選択肢から3つまで選択)



「① 若手芸術家・後継者の発掘・育成」、「⑦ 学校教育における文化芸術や伝統文化の学習機会の拡充」の回答割合が多くなっており、「活動者・後継者(ひと)の育成」と「学校教育における文化芸術学習等の機会充実」が望まれている。この傾向は、問9の「若者の文化芸術への参加」に関する回答結果と類似している。

<参考: 過去の調査結果との比較>

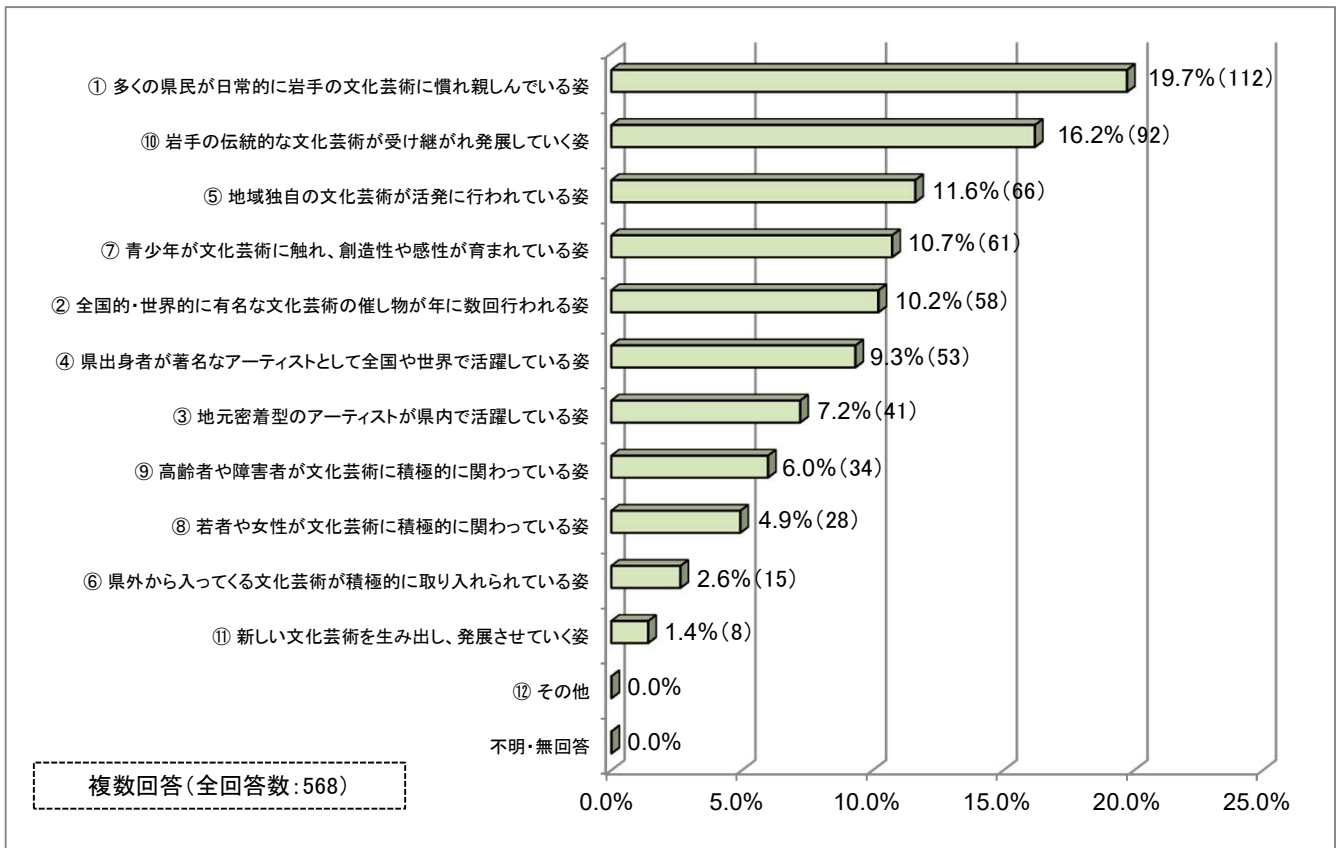
Q 文化芸術の担い手である県民に対する行政のサポートとして、どのようなものが大切だと考えますか。

選択肢	回答割合				増減	
	平成26年度	(順位)	令和元年度	(順位)		(順位)
① 若手芸術家・後継者の発掘・育成	18.8%	(1)	22.0%	(1)	3.2%	+0
② 地域の活動者や団体等への指導者の派遣及び指導者の養成	10.4%	(5)	13.3%	(3)	2.9%	+2
③ 文化芸術活動に貢献した個人・団体等の表彰	4.0%	(9)	3.8%	(9)	-0.2%	+0
④ 文化芸術についての情報収集・提供	12.4%	(4)	11.9%	(4)	-0.5%	+0
⑤ 県内外の地域との文化芸術の交流機会の拡充	10.3%	(6)	9.0%	(6)	-1.3%	+0
⑥ 文化芸術団体と市民団体等との連携の促進	5.3%	(8)	5.2%	(8)	-0.1%	0
⑦ 学校教育における文化芸術や伝統文化の学習機会の拡充	16.5%	(2)	16.0%	(2)	-0.5%	+0
⑧ 地域における文化芸術に関する相談窓口や橋渡し等の支援体制の整備	8.0%	(7)	6.5%	(7)	-1.5%	+0
⑨ 文化芸術活動の発表又は鑑賞機会の提供	13.8%	(3)	11.0%	(5)	-2.8%	△2
⑩ その他	0.5%	(10)	1.3%	(10)	0.8%	0
不明・無回答	0.1%	(11)	0.0%	(11)	-0.1%	0

注 網掛けの数値は、平成26年度・令和元年度それぞれの年度における回答割合が、上位1位から3位までの選択肢であること。

平成26年度・令和元年度の両年度において、上位2つの項目は同じ内容となっており、「活動者・後継者(ひと)の育成」と「学校教育における文化芸術学習等の機会充実」は根強いニーズであることが分かる。

問13 岩手の文化芸術を構築・振興するうえで、より望ましい将来像・理想像はどのようなものだと考えますか。  
(選択肢から3つまで選択)



「① 多くの県民が日常的に岩手の文化芸術に慣れ親しんでいる姿」、「⑩ 岩手の伝統的な文化芸術が受け継がれ発展していく姿」の回答割合が多くなっている。

<参考: 過去の調査結果との比較>

Q 岩手の文化芸術を構築・振興するうえで、より望ましい将来像・理想像はどのようなものだと考えますか。

選択肢	回答割合		増減	
	平成26年度 (順位)	令和元年度 (順位)	増減 (順位)	
① 多くの県民が日常的に岩手の文化芸術に慣れ親しんでいる姿	18.6% (1)	19.7% (1)	1.1%	+0
② 全国的・世界的に有名な文化芸術の催し物が年に数回行われる姿	7.9% (7)	10.2% (5)	2.3%	+2
③ 地元密着型のアーティストが県内で活躍している姿	5.1% (8)	7.2% (7)	2.1%	+1
④ 県出身者が著名なアーティストとして全国や世界で活躍している姿	9.0% (5)	9.3% (6)	0.3%	△1
⑤ 地域独自の文化芸術が活発に行われている姿	12.5% (3)	11.6% (3)	-0.9%	+0
⑥ 県外から入ってくる文化芸術が積極的に取り入れられている姿	2.6% (11)	2.6% (10)	0.0%	+1
⑦ 青少年が文化芸術に触れ、創造性や感性が育まれている姿	11.3% (4)	10.7% (4)	-0.6%	+0
⑧ 若者や女性が文化芸術に積極的に関わっている姿 H26のみ	8.3% (6)	4.9% (9)	-3.4%	△3
⑨ 高齢者や障害者が文化芸術に積極的に関わっている姿	3.6% (10)	6.0% (8)	2.4%	+2
⑩ 岩手の伝統的な文化芸術が受け継がれ発展していく姿	16.9% (2)	16.2% (2)	-0.7%	+0
⑪ 新しい文化芸術を生み出し、発展させていく姿	3.7% (9)	1.4% (11)	-2.3%	△2
⑫ その他	0.4% (12)	0.0% (12)	-0.4%	+0
不明・無回答	0.1% (13)	0.0% (12)	-0.1%	+1

注 網掛けの数値は、平成26年度・令和元年度それぞれの年度における回答割合が、上位1位から3位までの選択肢であること。

平成26年度・令和元年度の両年度において、回答割合の上位3項目の順位に変動はない。

このことから、より望ましい将来像・理想像は「岩手の各地域において、地域独自の・伝統的な文化芸術が活発に行われ、県民が慣れ親しみ、その文化芸術が着実に継承・発展している姿」であるものと考えられる。

問14 その他、文化的魅力のある地域づくり、文化芸術振興においてどのようなことが大切だと考えますか。  
(自由記載【要約、抜粋】)

○ 情報発信(提供)・PRに関すること

- ・ PR不足を感じる。岩手は広いので同県でも知らないことが多い。
- ・ イベント等で、まずは人々が目にする機会を多くすることが大事。
- ・ 居住地には大きなホールがあるので恵まれている方ではあるが、どうしても盛岡中心になっている感は否めない。今まで同様どんどん情報を発信して、できるだけ地域格差が少なくなるよう願う。
- ・ 高齢化が進む中、積極的に参加できるような身近なところでの情報発信が必要。
- ・ テレビやラジオの地元の生放送を利用する。
- ・ 文化芸術活動に参加したくても情報が少なかったり見つけづらかったりするので、情報発信の工夫をした方がよい。また、車がなく、バス、電車などを利要する人たち向けにそういう活動をしている場所に出かけやすくする工夫も必用。
- ・ 文化芸術振興といっても聞き慣れない言葉。趣味などを持っている方は参加するでしょうが一般家庭の人はあまり参加しないのではないかと。何か後学のために必要なことがあれば参加する気になるのではないかと。
- ・ 文化財の保護(歴史・・・)何より大事。県民の認識高揚策をもっと講じられたい。
- ・ もっと情報発信が行われ、もっと気軽に参加できるようになれば良い。
- ・ 官民主権問わずインターネットでの情報の提供を増やす。文化芸術に触れる機会を増やす。
- ・ 行事やイベントに参加したいが、日程が分からず参加できないことが多い。テレビや広報誌に載るが、記事が小さく見逃したりテレビなどでは当日の放送や後日の放送で残念に思うことがある。
- ・ 他地域への魅力発信により相対的な価値、知名度を上げ、岩手のイメージをつくる。
- ・ 岩手には発信力が圧倒的に欠けている。これの打開が肝要。

○ 文化芸術活動や、触れる機会・鑑賞の場の提供に関すること

- ・ ある程度、生活に余裕がないと芸術関係に気持ちが向かないと思う。そのような人達のために、無料もしくは格安で鑑賞できるイベントを増やしてほしい。
- ・ 一般の人が美術展を開こうとしても場所が少なすぎる。例えば、おでってギャラリーはなかなかとれない。町中の空き店舗などリフォームして発表の場を(安価に)補充して欲しい。
- ・ 奥州市で美術館がないので盛岡や仙台に行くのですが、近い所に文化芸術に通えるところがあれば1週間に1回でも通いたい。市民が訪れる際パスポート(安いチケット)で入館できたら良い。
- ・ 鑑賞することによって、活動する喜びがあります。被災地でも公演コンサート等が開催されています。一人ひとりが参加することが大事だと思います。
- ・ クリエーターと「感動」を共有できる場を増やしてほしい。
- ・ 芸術鑑賞の機会が多くなるよう、希望する。
- ・ 健常者、障がい者関係なく芸術や文化にふれる機会がふえる事が多いと良いとアンケートを通じて感じた。
- ・ 県の施設としての美術館、博物館がもっと身近に足を運べる様な所にしてほしい。小さなコンサート、イベント等の開催があってもいいのではないかと。
- ・ 第1回芸術祭文化祭を取り入れております。各地域老若男女集って物作りを展示することにより各自に意欲を持たせる。また集まることにより各自の健康の把握する。地域後とのコミュニケがとても大切なことと心がけている。
- ・ 年齢制限を無くして、芸術講習会を常時行われる事を望む。
- ・ 文化芸術に触れたいと思っても、心の余裕、身体の余裕等がなくて芸術、文化等、程遠いと感じている人がたくさんいると思う。
- ・ まだ何にも興味を持たずにいる人々に鑑賞や活動を気がねなくできるような場の設定(場所の確保、発表の場)が日常的にあること。
- ・ 地域の伝統行事や舞踊がショーとしてホールで上演できる施設があれば、観光客が時期に限らず楽しめる。
- ・ 文化芸術に関わる色々なサークルを紹介していただき、高齢者や障害を持つ方達の発表の場が増えれば良い。
- ・ 実際平泉町で活動させていただいている。

## ○ 幼少時からの文化芸術教育、学校教育の中での文化芸術活動に関すること

- ・ 学校(中学や高校)教育でも、運動部の陰に隠れず文化部にも光が当たると良いなと思います。
- ・ 学校教育の現場でまず地域の(県内の)文化財について教育することが第一歩だと思う。文化教育による「文化」のイメージチェンジが不可欠。
- ・ 近隣で芸術鑑賞等の機会もあるが、参加する人が非常に少ない。学校での芸術鑑賞の学習機会を増やしたり、幼少時からそのようなものにふれる事も大事だと思います。
- ・ 地域において幼児から芸術文化にふれる環境であることを願っています。
- ・ 文化芸術振興のためには小中高学校における指導者の指導力向上が不可欠な現状である。対応策として喫緊の課題と受け止めてほしい。
- ・ 文化や芸術を通じた心の教育を行うことで若者の自殺やいじめ対策につながるのではと思います。
- ・ 勉強や仕事も大切であるが、良い物に触れることによって心が豊かな人間を育てていくことが必要。欧米の取組や町並を参考にして欲しい。
- ・ 保育園・幼稚園・中・高校(義務教育)etc教育者の意識が足りない。(他県に比し)岩手県教育委員会の教育者の方々が積極的に市町村教育委員会への指導者に働きかけを希望する。
- ・ 幼児期から文化芸術鑑賞を多く取り入れる環境が必要。
- ・ 老若男女問わず、文化芸術が身近に感じられるといい。中でも、子ども達には特に触れる機会があると、将来子どもたちの財産になると思う。
- ・ 花巻農業高校や北上翔南高校の鬼剣舞など、学校の部活として関われる場があると、親しみ具合も深まるなと思う。普段地域の伝統芸能に関わっているが、なかなか子どもたちや若者が触れ合える場所やチャンスが少なく、やっとロコミなどで希望者が少し集まる程度。もっと触れ合える機会が増えれば、おのずと関心を持ってくれるのではと思う。先人たちの残してくれた文化を途絶えさせないためには、今つなげていかないと、引き継ぐ人がいなくなってしまうのは遅いと思う。もっともっと関われる場所や機会を増やしてほしい。
- ・ 小さい頃から文化芸術に触れさせ、いつも当たり前にある環境が必要。

## ○ 次世代(後継者)育成・若者支援等に関すること

- ・ 現在では若い人たちの感心が少なく地域にある文化芸術など教育機関の中で指導や交流が必要。
- ・ 後継者担い手の募集、育成が必要(県からもお金を出す)。
- ・ 後継者の育成と景観等については管理体制の強化が課題と思われる。
- ・ 地域(区)に古くから伝わる文化活動に若者(10~20代)が積極的に参加できるように大人の働きかけや魅力発信をしていくことが大切。さらに、外の地域の人々にも広く示す機会を多くし、地域間の交流をすることも大切だと考える。行政はその支援をしてほしい。
- ・ 地域のコミュニティを図るためにも、祭りも大切な事業と考えています。若者の地域からの流出により後継者不足、事業費の捻出に苦勞している。
- ・ 伝統文化のたくさん残っている地域だと思うので、大事に継承して行ってほしいと思います。
- ・ プレイヤー(活動をする人)の数が少なければ繁栄は難しいと思うので、プレイヤーの数を増やす、または支援する施策は継続的に行う必要があると感じる。コンテストの開催、県からの表彰等々。また、岩手県から各芸術・芸能分野のプロやプロ組織、会社が生まれることを心から望んでおり、それを目的としたプロジェクトも発足されれば良いなとも思う。
- ・ 若い人につないでもらいたい。
- ・ 若者のくらしやすい社会があつての地域づくりであつて魅力のある地域があつての文化の発展だと考える。

## ○ 文化芸術の継承に関すること

- ・ 地域で支えなければ無くなる。
- ・ 地域の伝統文化を守りながら、新しい人、新しい発想を取り入れて更に良いものとしようとする。地元の理解と協力、文化的意識の醸成が大切なのではないかと思います。
- ・ 地域の文化芸術振興は人間の内面の豊かさを形成する上で大事だと思います。私の町では町の文化祭があります。舞台上での踊りや演奏、書道等、町の人々の文化芸術の発表の場です。文化祭を続けていくことが大事だと思っている。
- ・ 地域の歴史的景観の保全のためにはお金だけでなく時間と体力が必要です。個人(地主)の力だけでは無理があり周りの協力が欲しい。
- ・ 人口減少中での文化活動継続のためには、県外からの人的支援等が必要です。それを呼び込む工夫が必要。
- ・ 伝統の大切さを後世にも受け継げる環境であること。
- ・ 有名な芸術家の作品もしくは有名な文化財に触れることも大事ですが、それぞれの地域に密着した文化の継承も大事。
- ・ 数多くある岩手の素晴らしい文化芸術、景観等を継承していくためには人材の発掘、養成、指導者の確保、活動への支援、PR活動の充実という4点が大切である。
- ・ 活動団体が助成を受けやすくなると良い。
- ・ 継続的な運営、活動に対して、どれだけの支援ができるのか。それを解決しないと長続きしないのではないかな。
- ・ 花巻では定期的に大迫で早池峰神楽とか大償神楽を催している。活動支援(財政的援助)をして欲しい。
- ・ 偏った支援ではなく、将来にわたって活躍できるような支援を望む。
- ・ 会員の高齢化などで文化団体等の活動が停滞してきているのは残念。

## ○ 観光等関連分野との連携や地域振興について

- ・ 農業を主体としてのアートジェネレーション。
- ・ 県産品パッケージデザインへの活用。
- ・ 芸術家村をつくる。
- ・ 石巻で行われる、リボンアートなどを参考にするのも良いのではないかな。
- ・ 地域ごとの活性。

## ○ 人材育成、相談支援に関すること

- ・ 行動を起こしたくても、窓口が分からずあきらめてしまう。各地域で話だけでも聞いてもらえる所があってそこから誘導(やり方、資金等)をしてくれるとうれしい。
- ・ 参加する仕組みづくり、個人への直接案内、PR。
- ・ 古いものだけにこだわらない。常に研修・新しい情報の収集を行う。
- ・ 文化芸術が日常となるよう、継続的に人材の育成と情報発信が必要。

## ○ 文化芸術への意識について

- ・ 各々の個性が活かされ、伸び伸びと輝ける環境があること。
- ・ 経済効果や観光客の増加を目的とした振興策や何かの誘致、指定登録を目指すことよりも、純粋に文化芸術を愛すること、科学の発展、自然保護の取組が大事だと思う。
- ・ 文化芸術活動を行っている地域住民に対し、卑しめるような言葉で批判、評価する地域住民の意識改革が必要。
- ・ 文化芸術は特別なことでないということを浸透させていく。誰しものが気軽にできる『自分表現』と、親しむ環境の広がりを岩手に期待しています。
- ・ 未だに、物質的、あるいは経済的価値が重きを置かれている今日、折に触れて、文化的価値の重要性を啓発してほしい。

## ○ 文化財に関すること

- ・ 埋蔵文化財で発掘で見学会に行っても感動しても埋められる。残念でならない。後でも見れる所と機会が欲しい。
- ・ 盛岡市は古い文化財がたくさんあるのに活かされてない。

○ 震災の影響に関すること

・ 大槌町では、東日本大震災で多くの文化財、史跡、郷土芸能の道具、人材等を失った。全国の大企業やボランティア等から支援を受けて復活してきている。どのような非常事態が起きても国、県、企業等が支援できるような体制を構築してもらいたい。

○ 地域間格差に関すること

・ 中央と地方の格差をいつも感じています。